



和光市政を耕す

市政に新たな種をまき、
芽を育てよりよい街にしよう！

<討議資料>
2022年8月発行

VOL. 48 たけちゃん通信

前 和光市議会 議長 吉田たけし



新型コロナウイルス“第7波”が全国に押し寄せています。

「ワクチンを接種していても感染する人が目立ち、感染力は強いと言われていますので、重症化リスクが高い方は、かぜのような症状があったら無理せず自宅で休むほか、基本的な感染対策を徹底することが重要だ」と言われています。改めて、感染症対策を徹底してください。

和光市議会6月定例会が終了しました。

6月定例会では、元和光市職員の不祥事に関する調査特別委員会最終報告書が全会一致で議決された他、和光市部設置条例の一部を改正する条例案が否決されました。

吉田武司

元和光市職員の不祥事に関する調査特別委員会最終報告書

最終報告書で最も気になった点は、不祥事発覚の発端となった通報職員の公益通報に対する松本前市長と大島副市長の対応です。

多くの皆さんにこの時の対応がどうであったかを知っていただくため、大まかな流れをまとめてみました。なお、詳細については最終報告書をご覧ください。

平成30年12月4日午前

通報職員が、松本前市長に対し東内元市職員の現金着服の疑いについて報告及び通報。松本前市長は、通報職員に対し、警察に行く前に、東内元市職員に対し、持ち出した現金がどうなったか状況を聞くこと、その上で誤魔化すようなそぶりがあったらすぐに警察に通報することを指示。

平成30年12月4日午後

① 通報職員は、東内元市職員が犯行の隠蔽を図ると判断し、通報職員のうち3名が、埼玉県警本部に向かった。通報職員のうち市庁舎に残った職員が、県警本部に相談に行った旨を大島副市長に報告。

② 通報職員が県警の警部補らと相談中、通報職員の携帯電話に大島副市長から電話があり、「もっと臨機応変に対応できないのか」、「他に重要な（新たな）事実があった」、「すぐに協議を中止して戻ってこい」等と述べた。これに対して通報職員は、「これは公益通報でやっている」、「市長の命令で来ている」等と述べて、その電話を切った。

平成30年12月5日朝

東内元市職員が元部下だった職員を呼び出して封筒を手渡し、会計課金庫室のロッカーに入れるよう指示。午前8時30分頃から8時50分頃までの間に、元部下だった職員は、東内元市職員から預かった封筒を、会計課金庫室のロッカーに入れた。

平成30年12月5日午前10時頃

松本前市長、大島副市長及び総務部長が保健福祉部を訪れ、会計課の金庫室に置かれた各課のロッカーのうち、長寿あんしん課が使用する9番のロッカーを開けるよう指示し、その中から出てきた複数の封筒を職員に開けさせ、その中身を順次確認させた。松本前市長は、自身のスマートフォンでこれらの様子を動画撮影した。現金の確認後、松本前市長は、「分かりました、大丈夫です」、「これで分かりました」、「もうこれで結構です」、「こういうことです」等と述べた。

平成30年12月5日午前

通報職員は、松本前市長及び大島副市長と面談し、前日に県警本部で説明し警察から助言された内容を報告した。これに対して、大島副市長は、「取りあえずお金があったんだから」、「私が新しい事実が分かったと言ったにもかかわらず、人の意見を聞かずに勝手な行動をするから、こういうことになったんだ」との旨を述べた。

通報職員が、松本前市長及び大島副市長に対し、現金が金庫に保管されていることを知った経緯を尋ねたところ、松本前市長及び大島副市長は、「君たちからの一方的な話では片手落ちなので、東内元市職員に聞いた」、「東内元市職員が、当時特捜に持って行ったというのは嘘で、9番金庫にしまっていたと述べたので、これを確認した」と述べた。

これに対し、通報職員は、本来あるべき金額よりも多い金額が発見されたことの矛盾を指摘した。

これを聞いた松本前市長及び大島副市長は絶句し、大島副市長は通報者職員に対し、本来あるべき金額について資料を作成するよう指示。

以上が、最終報告書で判明した事実となります。

私が最終報告書を読んで感じたことは、松本前市長と大島副市長は、行政責任者として非常に危険な対応をされたんだなと感じました。（あくまでも感想です）皆さんはどう感じますか。

「元和光市職員の不祥事に関する調査特別委員会 -最終報告書-」



左のQRコードをスマホで読み取り閲覧できます。

<http://www.city.wako.lg.jp/var/rev0/0121/0975/122617151050.pdf>



和光市部設置条例の一部を改正する条例案否決の意味は？

和光市部設置条例の一部を改正する条例案は、不祥事の原因とされる不適正な人事管理による権限の集中やパワーハラスメントなどの問題等を改善するため策定した「和光市・不祥事の再発防止にかかる対応方針」に基づいて、市の組織体制を改善するために上程されたものですが、議会では否決されました。

元市幹部職員の犯罪行為について、市の職員が勇気を持って公益通報したにもかかわらず、「当時の混乱状況を踏まえても不自然と言わざるを得ない対応をした。」と指摘された大島副市長が居座ったままでは、組織をいくら見直したところで市の組織風土は改善されないだろうという議会の思いだったのかもしれない。



大島副市長も責任を取る必要があるのではないのでしょうか

最終報告書では、「前市長及び副市長が、上記ロッカーの確認を、職員の勤務時間中、かつ他の職員の耳目に触れるオープンな方法で（しかも、前市長はその様子をスマートフォンで撮影しながら）行ったことにも疑問がある。犯罪行為の可能性が指摘されている事実の確認は、その秘密保持のためにできるだけ限られた人員で、勤務時間外に、他の職員の目に触れないように行うべきであって、前市長及び副市長が上記のような確認方法をとったことは、**当時の混乱状況を踏まえても、不自然と言わざるを得ない。**」と指摘しています。

松本前市長は東内元市職員の一連の不祥事に対する責任を取るため、令和3年5月8日付で市長を辞職しています。そもそも副市長は市長が議会の同意を得て選任するものです。

大島副市長は松本前市長に選任された立場であり、松本前市長が辞職して次期市長選には出馬しないという決断をされたのなら、それと歩調を合わせて**大島副市長も辞職するべき**であったのではないのでしょうか。



赤松ゆうぞう議員のニュースレターへの反論

和光市議会議員の欠員問題として、赤松ゆうぞう議員のコメント（赤松ゆうぞう・施政ニュースレターより）

和光市議会は定員18名に対して、現在17名と1名欠員となっています。理由を選挙管理委員会に問うと、昨年の市長選に立候補した吉田市議が選挙告示日に辞職した為、市議補欠選挙が出来なかった。辞職が11日前であれば欠員1名でも市長選に便乗した補欠選挙を行えたとの説明。（コメント）市議は辞職する場合、時期を考える必要があります。1名欠員すると17名で議長が抜けて16名となり、3月議会の自動運転サービスの採決が可否同数となり、議長決済になった。また、欠員が2年間も続くとまちづくりにマイナスの影響があります。今後、立候補者は後先の事を考えて戴きたいと思います。（※ 赤松ゆうぞう・施政ニュースレター原文のまま掲載）

私は、当時、朝霞地区議長会会長及び埼玉県五区議長会監事を務めており5月上旬に各総会があり、任期途中に辞職することにより各方面に迷惑がかかると判断し、同市議会議員の皆様にはその旨を伝え理解をしていただき、朝霞地区議長会会長及び埼玉県五区議長会監事を最後まで務めさせていただきました。

なお、補欠選挙を行うには莫大な予算がかかるので、和光市の財政難を考慮し、自動失職を選択しました。

私は、このような判断をし、議員のみなさんに同意を得た上で判断したにもかかわらず、なぜ、赤松ゆうぞう議員からこのようなことを言われるのかわかりません。

赤松ゆうぞう・施政ニュースレターをご覧になった市民の方からも、この記事について、市議会に対し、内容を精査する要望が提出され、そのこと自体がもみ消されることのないよう、私にも議会に提出した文書と同じものが郵送されてきました。

私からも議長に対し、しっかりと精査するよう、お願いしました。



介護サービス費 重複支給 14世帯 87万円

「87万円を重複支給…市民からの電話で判明、介護サービス費で14世帯に返還手続き」国民健康保険の加入者から同額が2回入金されていると連絡があり、重複支給が判明しました。

市の報道発表によると、「事務処理において、国民健康保険制度分は別伝票で支給処理を行ったにもかかわらず、システムからの抽出誤りにより後期高齢者医療制度の支給者の中に国民健康保険加入者が含まれてしまった。」のが原因だったようです。

山口県阿武町の4,630万円の誤振り込み騒動や長野県飯田市の児童手当と臨時給付金あわせて38万円の誤振り込み、尼崎市のUSB紛失事件など、いずれも市長が市民に謝罪し、減給処分などを行った。



水道基本料金4ヵ月分を免除 市民の負担軽減へ

コロナ禍における「原油価格・物価高騰等に総合緊急対策」において、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金により水道料金基本料金（使用水量20m³を含む）の軽減が実施されます。（令和4年7月から10月水道メーター検針分）



和光市が訴えられました 損害賠償請求金額 7,370万円

元部長職職員が市民からだまし取った6,700万円に対して家族から民事訴訟が出されました。損害賠償請求は弁護士費用670万円を含めた、7,370万円です。

これに対して和光市は弁護士費用約700万円をかけて応訴するようです。

市民の中には弁護士費用をかけて応訴するよりも、だまし取られたご家族に弁済すべきとの声もあります。また、これまでにこの事件については、弁護士費用として市民の税金が多く使われています。

市政に対して関心を持ち、発言していくことが大切です。

税金の無駄遣いがないよう、皆さん一緒に市政を見守っていきましょう。

市政に対するご意見・ご要望、またなにかの時には、なんでもご遠慮なくご相談ください。皆さんと一緒に考えて行きます。

吉田たけし後援会

会長 柳下 茂

この会は、吉田たけしさんを中心に明るく、楽しく元気なまちづくりを目的に、会員相互の研修と親睦を行なっています。
入会無料です。入会いただける方は下記にご記入の上、この面をFAXしていただくか、吉田たけしオフィシャルサイトより必要事項を記入の上、送信してください。

吉田たけしの今を伝える。

日々の活動をSNSを使って配信しております。

FAXの方はこちら ご記入上そのままFAXしてください。

お名前
ご住所
ご連絡先電話番号
携帯
メールアドレス

インターネットの方はこちら

PC、スマートフォンからも可



<http://takechan-yoshida.jp/new/kouenkai.html>



ホームページ



Facebook



ブログ



Twitter